

# 22PO-am010

## Gymnocin-B の A 環と側鎖の短工程合成

江崎 雄都<sup>1</sup>, 鈴木 彩香<sup>1</sup>, 高塚 凌央<sup>1</sup>, 〇坂井 健男<sup>1</sup>, 森 裕二<sup>1</sup> (<sup>1</sup>名城大薬)

【目的】 Gymnocin-B は赤潮渦鞭毛藻 *Karenia mikimotoi* から単離された 15 環性のポリ環状エーテル化合物である。今回、A 環とその側鎖を 5 員環ラクトンから効率的に合成する方法を開発したので報告する。

### 【方法・結果】

オキシラニルアニオン法で **1** と **2** から合成した 4 環性ケトン **3** をモデル基質として検討を行った。

モノペルオキシフタル酸マグネシウムを用いた Baeyer-Villiger 酸化により 7 員環ラクトン **4** とし、*p*-TsOH 処理して 5 員環ラクトン **5** を合成した。次いで臭化アリルマグネシウムを付加し、生じたヘミアセタールを還元的エーテル化して **6** に誘導した。**6** とメタクロレインのクロスメタセシス反応により Gymnocin-B の A 環とその側鎖を短工程で構築することに成功した。

